

ATENA (Atomic Energy Association) : 原子力エネルギー協議会

原子力産業界の自律的かつ継続的な取組みを定着させていくことを目的に、原子力産業界全体の知見・リソースを効果的に活用し、規制当局等とも対話を行いながら、効果ある安全対策を立案し、原子力事業者の現場への導入を促す新たな組織として、2019年に設立。

CNO (Chief Nuclear Officer) : 原子力部門責任者

INPO (Institute of Nuclear Power Operations) : 米国原子力発電事業者協会

1979年3月に発生したTMI(スリーマイルアイランド)原子力発電所事故を教訓として商用原子力発電の高度の安全性と信頼性を推進する目的で、米国の原子力発電事業者により1979年に設立された事業者の自主規制組織。

JANSI (Japan Nuclear Safety Institute) : 一般社団法人 原子力安全推進協会

福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないために、世界最高水準の安全性をたゆみなく追求する組織として、我が国原子力産業界の総意のもと2012年に設立された組織。

NRA (Nuclear Regulation Authority) : 原子力規制委員会(日本)

NRRC (Nuclear Risk Research Center) : 電力中央研究所 原子力リスク研究センター

原子力事業者が原子力発電の利用における安全性をたゆまず向上させていく取組みに必要となる技術やノウハウを開発するための研究開発拠点として、2014年に設立。

SR (Senior Representative) : 発電所対応のJANSIの総合窓口となる代表者

TCP (Technical Contact Point) : 15専門分野におけるJANSIの発電所対応窓口

WANO (World Association of Nuclear Operators) : 世界原子力発電事業者協会

チェルノブイル原子力発電所の事故を契機に、世界の原子力発電事業者が、相互の切磋琢磨と交流により原子力発電所の運転の安全性と信頼性を高めることを目的に1989年に設立された世界的組織。

略語・用語解説(活動関連)

CAP (Corrective Action Program) : 是正処置プログラム

組織の不適合を吸い上げ再発防止や未然防止につなげる仕組み。

CM (Configuration Management) : 構成管理

システムのライフサイクルにわたる範囲、性能、機能的および物理的要件、設計、操作に関する情報などを確立し維持する作業またはプロセス。

OE (Operating Experiences) : トラブルなどの運転経験情報

ピアプレッシャー (Peer Pressure)

原子力産業界は「We are in the same boat」、運命共同体であるとの考えのもと、ピアレビューを通じ、さらなる改善事項の抽出・対応、その結果を踏まえ事業者全体の安全性向上に関する議論を行う相互牽制による安全性向上に向けた仕組み。

ピアレビュー (Peer Review)

専門家が発電所などを訪問し、その専門的立場から事業所の安全性(原子力安全、放射線安全、労働安全等)と信頼性の確保に係わる活動をレビュー(評価)することにより、事業所の安全性と信頼性を向上させることを目指すもの。原子力産業界ではWANOやJANSIが発電所に対して一定の頻度で実施。

PI (Performance Indicator) : 発電所パフォーマンス指標

PM&Cont.M (Performance Monitoring & Continuous Monitoring)

パフォーマンスモニタリングのシステムデータや各種情報により、発電所パフォーマンスの状況を日常的に把握するもの。

RIDM (Risk-Informed Decision-Making) : リスク情報を活用した意思決定

従来行ってきた決定論的評価に加え、確率論的リスク評価(PRA)の知見も統合し、より合理的な意思決定を志向するもので、導入に向けて事業者が現在取り組んでいる意思決定プロセス。

SAT (Systematic Approach to Training) : 体系的教育・訓練手法

業務分析から始まり、必要な知識・技能等をリストアップして、訓練プログラムの設計から効果の評価までを体系的に行うもの。

TPT (Team Performance Improvement Training) : 運転員のチームパフォーマンス向上訓練